

岡山和牛の資質向上への新たな取組について

岡山県農林水産部畜産課

昨今は、飼料高騰等による生産コストの上昇に加え、景気低迷の影響により牛肉消費が減退し、和牛子牛価格、枝肉価格ともにここ1年あまりで急激に落ち込んだことから、繁殖経営、肥育経営ともに極めて厳しい情勢に直面しております（図1）。

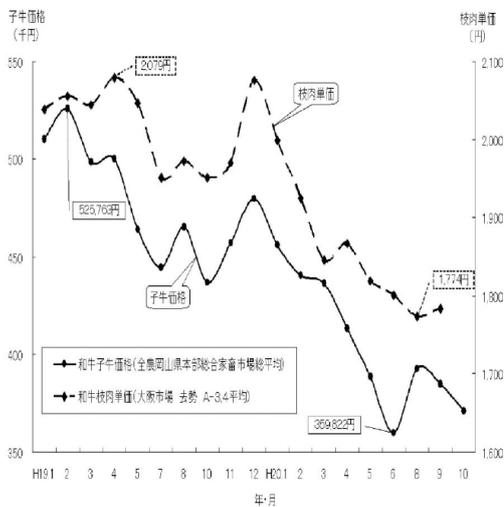


図1 和牛の子牛価格及び枝肉単価の推移

このような時こそ、生産段階において、より一層の生産性向上が求められます。

繁殖から肥育まで和牛生産全体を通して見れば、育成段階から肥育段階へのスムーズな移行が生産性の向上に大きく影響します。すなわち、この移行時点＝「子牛市場における子牛」の資質の良否が、厳しい情勢を乗り越えて和牛生産基盤を維持・強化する上で極めて重要なポイントといえるのです。

言うまでもなく、購買者（肥育農家等）のニーズにマッチした資質の高い子牛生産を推進するためには、生産者及び関係者が相互の理解と協力のもとに一致団結して取り組む必要がありますが、その推進母体として、全農岡山県本部を中心に、JAや県下の関係団

体、県関係機関等で構成する「岡山和牛子牛資質向上対策協議会」が設立され、活動が始まったところですので、その概要を紹介します。

1. 推奨される子牛の資質

発育が良く、良く発達した胃袋を持ち、増体・肉質ともに期待できる資質で、以下の推奨子牛基準条件（表1）を全て満たすものとしています。

表1 推奨子牛基準

項目	条件
日 齢 (去勢・雌)	220日齢以上 270日齢未満 230日齢以上 280日齢未満
体 高 (去勢・雌)	全国和牛登録協会が示す発育基準の1.0σ以上
胸 囲 (去勢・雌)	全国和牛登録協会が示す発育基準の1.0σ以上
腹 囲 (去勢・雌)	胸囲との差が+22cm以上
その他 (去勢・雌)	過肥でないこと 著しい瑕疵・損傷のないこと

また、購買者ニーズに対応し、子牛の生産に供される種雄牛については、あまり多岐にわたらないよう指導する必要があります（平成19年度上場子牛（2,949頭）の生産に供された種雄牛は128頭であるが、能力の判明した40頭程度に集約することが望ましい）。

2. 協議会の取り組み内容

以下の6つの取り組みを柱として、これを繰り返し実施することにより、らせん階段を一段一段昇るように、和牛子牛の資質向上を図ります（図2）。

- (1) 子牛の交配及び生産、育成マニュアルの作成と検証
- (2) 子牛の交配及び生産、育成技術に係る研究会・研修会の開催

- (3) 交配、飼育管理、育成等に係る生産指導
- (4) 子牛市場等における子牛育成データの収集と分析
- (5) 子牛市場における推奨牛子牛の展示
- (6) 岡山和牛子牛の外部評価調査及びPR

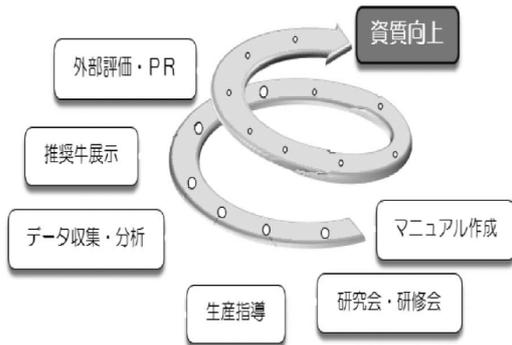


図2 協議会の取組のイメージ

3. 協議会の構成

協議会の構成員を、表2のように、幹事会及び3つの部会に分け、役割を分担して前述の取組を進めます。

表2 協議会の構成と活動内容

部会等	活動内容	構成
専門部会	繁殖及び育成に関するマニュアルの作成や、研究会・研修会を重ね、広く普及する。	全農、全和岡山県支部、県畜産課、総合畜産センター等
作業部会	子牛市場における育成データの収集と分析を行うとともに、推奨子牛は徽章をつけて展示する。	全農、農協、県関係機関等
地域部会	各地域において、交配や飼育管理、育成等について生産指導を行う。	農協、全農、農業共済連、県家畜人工授精師協会、県関係機関等
幹事会	上記3部会の活動を総括するとともに、県内外の購買者等を対象に外部評価調査や岡山和牛子牛のPRを行う。	全農、畜産協会、県畜産課、総合畜産センター等

注) 県関係機関：畜産課、県民局畜産班、総合畜産センター、農業総合センター、家畜保健衛生所、農業普及指導センター

4. 協議会の目標

3年後を目処に、表3のとおり、3つの目標達成に向け取り組みます。

表3 協議会の目標

項目	現状	3年後
推奨子牛の条件を満たす子牛の上場頭数に占める割合	7%程度	30%以上
推奨種雄牛による生産子牛の上場頭数に占める割合	78%程度	90%以上
子牛市場の年間上場頭数	3,000頭弱	3,300頭以上

「畜産危機」と言われる厳しい情勢の中ではありますが、力強い肉用牛生産基盤づくりを目指して関係者一丸となって取り組んでおります。

生産者、関係者の皆様方には、本県の和牛生産基盤の強化に向けた本協議会の取組について、御理解とより一層の御協力をよろしく申し上げます。